

街並みテクテク No. 4 : 早稲田～神楽坂 (2023-3-19)

参加者：碓貴臣、岸敦夫、岸奥様、後藤幸子、高野泰三郎、黛政男、木村芳一 (計7名)

行程：早稲田駅→飯田橋駅 約8km

地下鉄東西線・早稲田駅→夏目漱石・漱石山房記念館→穴八幡宮→甘泉園・水稻荷神社→早稲田大学構内→大隈講堂→神田川→肥後細川庭園→芭蕉庵→胸突坂→東京カテドラル聖マリア大聖堂(丹下健三設計)→椿山荘→地藏横丁→赤城神社(1300年赤城山麓の赤城神社を分祀)→筑土八幡神社(約1200年前に創建)→神楽坂(兵庫横丁、かくれんぼ横丁:黒板塀と石畳の路地)→毘沙門天・善國寺(1595年に馬喰町に創建されたものを移転)→飯田橋駅

・極めて良い天気であり、また桜がチラホラ、所によっては8分程度まで咲いている中、気持ちよく歩きました。ただ、今回のコースには、低地にある早稲田大学や神田川、また高地にある東京カテドラル聖マリア大聖堂や椿山荘(目白台地)、赤城神社(牛込台地)が含まれ、高低差が大きく、階段が多くて、疲れしました。

・漱石山房記念館は夏目漱石が晩年を過ごしたところに設けられ、漱石の草稿、初版本、俳句、書画などが展示されていました。館内に漱石の像、写真が示されていましたが、いままで限定的に見てきた漱石の顔とかなり異なるので違和感を感じました。

・甘泉園は、徳川補佐の清水家の下屋敷であったものが子爵相馬家の庭園(明治)、早大付属の庭園(昭和)を経て区立公園となったもの、また肥後細川庭園は、幕末、肥後熊本藩細川家の下屋敷、細川家の本邸を経て都立公園となったもので、ともに歴史のある池泉回遊式庭園であり、きれいに整備され、憩いの場となっていました。

・東京カテドラル聖マリア大聖堂は屋根を十字構造とする大胆な設計で、丹下健三の代表作です。内部ではパイプオルガンが弾かれていて、荘厳な雰囲気が漂っていました。

・穴八幡は1062年源義家の創建とされています。昔、近くの中、高校に通っていたころ素朴な神社だと思っていましたが、現在では壮麗な朱塗りの隋神門や鼓楼、拝殿が設けられ、圧倒されました。付近には、高いビルが林立し、自分の母校を探すのに苦労しました。

・神楽坂では、黒板塀に囲まれた料亭の間の狭い石畳の通路を歩き、雰囲気を楽しみました。

(木村芳一)



地下鉄東西線・早稲田駅にて



漱石さんとともに



胸突坂を頑張って上る



きれいに整備された肥後細川庭園



東京カテドラル聖マリア大聖堂の
パイプオルガン（演奏中）



椿山荘（人工的雲海が漂う）